

センター活用事例



有限会社
秋田トランス製作所

自社の強みを認識し
新規の売り込みと
既存取引の強化を図る



農閑期の女性たちの働き口として創業

井川町で1970年に設立した有限会社秋田トランス製作所。その名のとおり、トランスを始めとする電子部品の製造を巻線工程から検査まで一貫して行っている。現在代表を務めるのは、3代目の湊教良さんだ。結婚を機に妻の家業である同社に入社した。電子部品の分野は全くの未経験だったという湊さんは当時社長だった義父にトランスの仕組みや製造方法などを教えてもらいながら少しずつ覚えていった。しかし、入社から6年後の2012年に義父が急逝してしまう。代表に就任した後も、ベテランの従業員に作業を教わりながら10年以上続けてきた。

湊さんが業界に入った20年ほど前から、トランスの製造委託は海外が主流となっていた。業界は厳しい時代が続いており、廃業した同業者もいたという。農家が多い井川地域で、創業者が農閑期の女性たちのために始めたこの事業をなんとか継続させたいと考え、2018年、よろず支援拠点に運営資金の融資の受け方や資金繰りに関する相談をした。

ゆくゆくは設計まで踏み込んでいきたい

この相談がきっかけとなり、営業のノウハウから技術的な相談もするようになる。現在、品質に大きく影響する巻線を、誰がやっても同じように仕上げられるよう、産業技術センターを交え、3Dプリンタを使って治具を制作。まもなく、実装段階に入る。

よろず支援拠点での相談を通し、自社では当たり前に行っていたことが他にはない強みだと気づくことができたと言語る湊さん。今はそれを外部に知ってもらふ必要性を感じている。

「これまでは製品を作り、納品することだけをやってきました。当社の丁寧な仕事を評価してくださり、大切にしようと思ってくださる取引先もいます。最近従業員が取引先に出向し、業務の一部を担うなど、作って納品する以上の業務も増えてきました。工程のアウトソーシングの受け皿となって、強固な繋がりを作っていききたい。そういった意味でも、今後は設計を自社でできるようにしていきたいと考えています。」と、意気込みを語った。



みなと のりよし
代表取締役 社長 湊 教良

有限会社秋田トランス製作所
〒018-1512
南秋田郡井川町北川尻字中村46-6
TEL:018-874-2302
FAX:018-874-2049

>>> 活用事例

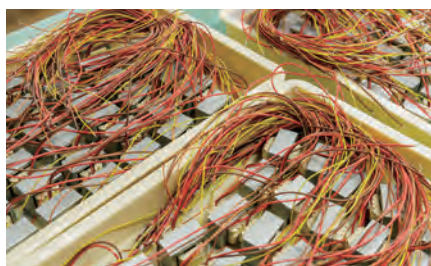
秋田県よろず支援拠点

幅広い経営知識と高い専門性を有するコーディネーターが、相談者の課題を抽出把握して、課題解決を目指した提案に基づきチーム支援します。

【お問い合わせ】
秋田県よろず支援拠点
TEL. 018-860-5605



自動化できない配線作業。手作業だからこそスムーズに仕事ができるよう改善していきたいと湊さんは語る。



納品する際は、製品の向きや配線の流れを意識し並べる。



全てのトランスは全数検査が行われる。納品後、取引先では抜き取りでの検査で済むようにという配慮だ。